

日本ユネスコ国内委員会 第7回文化・コミュニケーション小委員会

これからの時代におけるユネスコ活動の推進 －文化を媒介として－

奈良教育大学 ESD・SDGsセンター 中澤静男

国際理解教育とユネスコ協同学校(ASP)計画に関する第4回協議会
ユネスコ東アジア地域世界遺産教育国内ワークショップ

ユネスコが提起する教育を どう受けとめるか

「世界遺産教育」と
「持続可能な開発のための教育(ESD)」を中心として

今回、第4回ASP協議会を、奈良教育大学において開催することとなりました。本会ではパリのユネスコ本部よりASPの担当者であり、教師用世界遺産教材の作成にも携われたニーデルマイヤー課長を招聘し、世界のASPを通じたユネスコ教育の動向についてご教示いただけることとなりました。世界遺産教育は世界遺産を切り口にして、従来の教科や授業を活性化させようというものです。本会が、ユネスコ教育の精神を日本の教育現場にどう反映させるのか、ESDや世界遺産を社会科学や理科、「総合的な学習の時間」などの日常的教科・授業とつなぐための課題を解きほぐす研修会になればと願っております。

2007
日時 **3月24日(土)・25日(日)**

会場 **国立大学法人 奈良教育大学**

3月24日(土) 12:30~18:00 (全体集会:管理棟2F 大会議室)
※18:30~ 奈良女子大学附属中等教育学校内カフェテリアにてレセプションを予定しています

3月25日(日) 9:30~12:30 (全体集会:講義棟1F 101教室)
(分科会:講義棟1F 104・105の各教室)
※13:30~ フィールドワークを行います

パリユネスコ本部から
ASP(ユネスコ協同学校)担当
「ニーデルマイヤー課長」が来日!

WHE、ESDとは…
ユネスコは様々な課題に取り組んでいますが、最近では「世界遺産教育(World Heritage Education:WHE)」と「持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development:ESD)」の推進を世界の教育関係者に向かって呼びかけています。また、2006年11月には東アジアASPネットワーク世界遺産教育の推進会議がソウルで開催され、それぞれの国内において「ESDを視野にいたったWHE」のワークショップを開催するよう促されました。

ユネスコ協同学校とは…
世界にはユネスコの精神に共鳴するユネスコ協同学校(ASP)が現在約7800校あり、日本では20校がこれに加盟しています。2004年には日本ASPネットワークが設立されて、過去3回、実地を持ち寄り経験を交流して参りました。

主催 日本ユネスコ協同学校(ASP)ネットワーク、日本ユネスコ国内委員会、奈良教育大学
財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)、社団法人日本ユネスコ協会連盟

共催 日本国際理解教育学会、奈良NPOセンター

後援 奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、奈良ユネスコ協会

実行委員長:田淵五十生(奈良教育大学教授)、副実行委員長:多田孝志(自白大学教授)
事務局長:谷口尚之(奈良教育大学附属中学校教諭)

写真:奈良市観光協会



図1 ニーデルマイヤー博士の基調講演

私が受け取ったメッセージ

これからの教育
競争

ESD

↓
共創・協働へ

自己紹介

奈良教育大学 中澤静男



奈良教育大学
中澤静男

私の研究テーマ:

「歴史文化遺産を通じたESD」

- ◇ESDとは、持続可能な社会の創り手を育てる教育。
- ◇ESDは、学習者の社会づくりに関する**価値観と行動の变革**を促す教育
- ◇SDGsの達成に貢献しようとする人を育てる教育。
- ◇古都奈良の文化財には、1300年間にわたり受け継がれているもの(ずーっと現役)がある。そこには、持続可能な社会づくりのヒントがあるだろう。

私の実践の目標

- ・文化を通じて、平和で持続可能な地域社会の創り手を育成する(大学生・小中高校生)。
- ・文化を通じた平和で持続可能な社会づくりのモデルを発信することで、全国各地での若者による持続可能な社会づくりの行動化を誘発する。



私の実践

- (1) 歴史文化遺産を通じたESDをテーマとした大学の授業 「持続発展教育と文化遺産」「ESDと世界遺産」
- (2) 修学旅行生を対象とした「奈良SDGs学び旅」

大学の授業について

「持続発展教育と文化遺産」「ESDと世界遺産」

- 古都奈良の文化財に代表される歴史文化遺産や伝統行事などをSDGs達成の必須要素の観点から分析し、先人がまた現代においても受けついでおられる人々の営みに学び、自らの行動の変革を促す。

※SDGs達成の必須要素

- ①国際協力
- ②技術革新
- ③新しいシステムの導入
- ④参加・協力する市民の存在・活動

トップダウン
S D G s

ボトムアップ
E S D

(2)修学旅行生を対象とした「奈良SDGs学び旅」

- 目的:物見遊山的な奈良観光をSDGsを学び、自らの行動の変革を促す修学旅行に改革する。
- 奈良でのSDGsの学びを自らの地域での実践に結び付け、各地での若者による持続可能な地域社会構築の動きにつなぐ。

【コース】

- ①東大寺コース:大仏様の建立や復興に学ぶ
- ②奈良町コース:元興寺が継承されてきた理由に学ぶ
有力なスポンサー不在にもかかわらず継承できた理由
- ③奈良公園・春日山原始林コース:奈良の鹿と人の関わり、原始林が保全されてきた理由に学ぶ

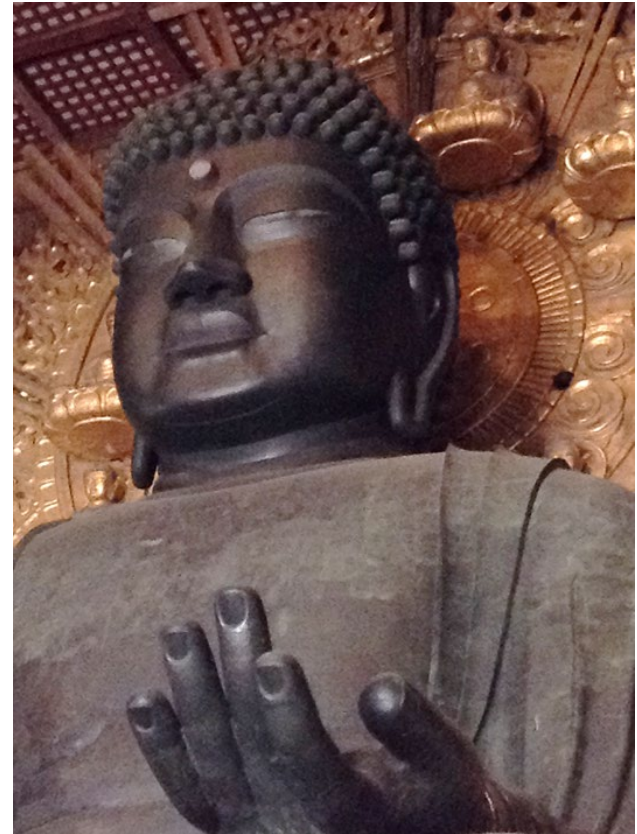
東大寺の大仏様から学ぶSDGs

誰もが幸せに生きることができる社会(持続可能な社会)をつくろうという挑戦は、実は奈良時代から続けられています。それを証明してくれるのが東大寺の大仏様です。

教科書の知識

聖武天皇は752年に
東大寺大仏を造りました。

聖武天皇はなぜ大仏様
をつくったのか？



・奈良時代はどのような時代だったのか？

『続日本紀』(天平6年・734年)

「近年、天候が不順だったり地震がしばしば起こったりする」

天候不順 ⇒ 飢饉に直結

奈良時代の飢饉の発生年

735年－737年

763年－764年

773年－774年

75年間に3回(計7年)

ということは10年に1回の確率



気候に関する古文書の記録

年代	合計	降雨	寒冷	湿潤・ 寒冷指数	高温	乾燥	干ばつ 指数
697-791	239	59 24.7%	10 4.2%	29	67 28.0%	103 43.1%	43
1000-1099	166	52	24	46	35	55	33
1150-1200	257	133	10	57	42	72	28
1200-1299	790	377	85	58	121	207	26
1280-1350	326	198	14	65	41	73	22
1351-1399	299	139	34	65	52	74	22

- 奈良時代(8世紀)には、干ばつ指数が湿潤・寒冷指数を大きく上回っている。高温についての記載比率が高い。

743年盧舎那仏造顕の詔に述べられている、
大仏様をつくる目的。(トップダウン)

①乾坤相泰らか(けんこん あいやすらか)に

※気候がいつも通りで地震がなく平穏であること

SDGsの13番(気候変動)、11番(防災)、

2番(飢餓の撲滅)

②動植、ことごとく栄えんことを欲す

※すべての動物、植物が栄える世の中にしよう

→SDGsの14番(海の豊かさを守ろう)

15番(陸の豊かさを守ろう)

もうひとつ
奈良時代の人たちが困っていたこと

- **日本最初の天然痘の流行**
- 735年 太宰府で天然痘の流行が始まる
- 736年 日本を出発した遣新羅使100名。朝鮮半島で60名が天然痘に感染、帰国できたのは40名程度
- 737年 平城京でも大流行(総人口の25%が死亡)

「この年の春、瘡(そう)のある疫病が大流行し、最初は筑紫から伝染し、夏を経て秋に及び、公家以下、天下の人民で死亡する者が数え切れないほどであった。このようなことはいまだかつてなかった。」(続日本紀)

国政を担っていた藤原4兄弟(藤原武智麻呂、藤原房前、藤原宇合、藤原麻呂)も死亡。 **天平のパンデミック**

→ **SDGsの目標3(健康・福祉)**

大仏様のつくり方に関して

◇如し更に、人の一枝の草、一把の土を持ち
て像を助け造らんことを請願するものあらば、
恣に之を聴せ

小さな力を集めて大仏を造ろう

260万人の国民が手伝った
(当時の日本人は550~600万人)

為政者の思い

国民はどのよう
に対応したのか

東大寺大仏様の建立・復興に関する 国民の対応（行動化）のまとめ

奈良時代：聖武天皇

「一枝の草、ひとにぎりの土」

平安時代：真如親王

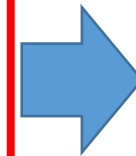
「一文の銭、一合の米を論ぜず」

鎌倉時代：重源上人

「尺布、寸鉄、一木、半銭」

江戸時代：公慶上人

「一針、一草の喜捨」



国民がボランティアで、自分から進んで大仏様の復興作業・寄付を行ったことで、大仏様が現存する。

SDGsの達成が求められている現代、あなたは何を、いつから行動化しますか？

東大寺南大門での 着目ポイント①



宋(中国)から取り寄せた
石材をつかって、中国の石
工がつくったもの

①**国際協力**の跡が見て取れる
⇒ 目標⑰グローバル・パート
ナーシップの重要性



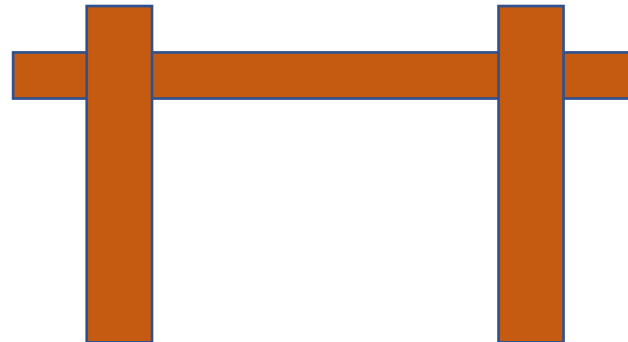
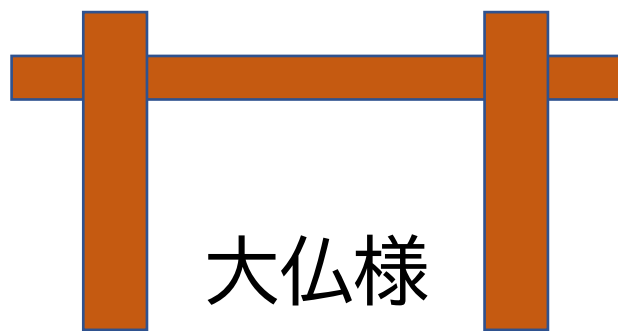
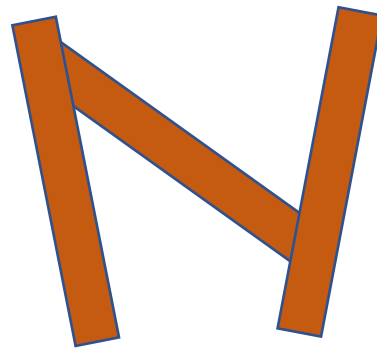
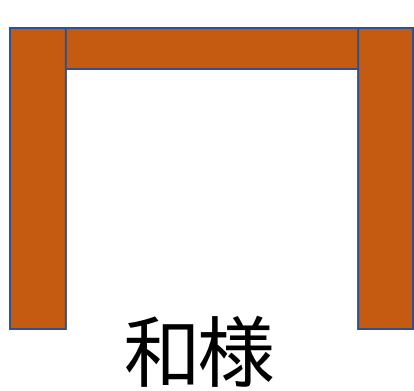
東大寺南大門



鎌倉時代の
初めに重源
上人が復興
した

東大寺南大門での着目ポイント2

②鎌倉時代の最新技術:大仏様(だいぶつよう)





柱の内部で、2本の木材が組み合わされている
絶対に外れない＝地震にとっても強い構造

奈良SDGs学び旅の流れ

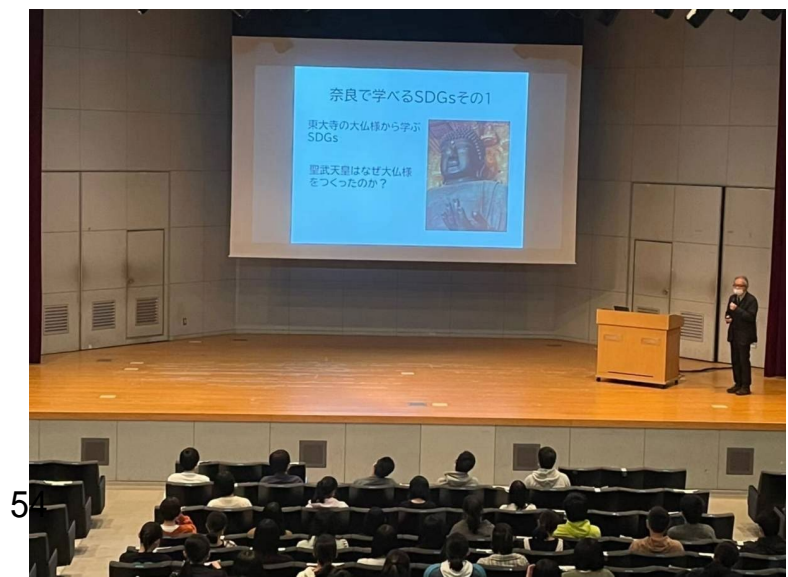
- オンラインによる大学教員による奈良で学ぶことができるSDGsに関する事前学習。あるいは、当日に奈良教育大学等で、大学教員から講義を受ける(45分～60分)
- 少人数グループでガイドの引率の元、現地見学に向かう。

奈良SDGs学び旅のコンセプト

- ①現地見学の重視:五感を鍛え、持続可能性に関するソマティックマーカーの洗練化を図る
- ②思考力育成を重視:ガイドは発問し、生徒同士の対話を促す。答えは言わない。
- ③地元に戻ってから、歴史文化遺産のESD教材としての探求を促す。(初年度の学校のため、事後学習については把握できていない)

2022年度の実績(4月~11月)

対象月	小学校		中学校		高校	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	4	594	0	0
6月	0	0	2	450	2	141
7月	0	0	1	103	1	39
8月	0	0	2	96	2	41
9月	1	55	1	24	0	0
10月	0	0	4	454	2	186
11月	1	99	2	237	3	251
合計	2	154	16	1958	10	658



(3)新しい取り組み

奈良ユネスコ協会青年部

こんにちは！私たちは、高校生～社会人の約35名のメンバーが所属する団体です。ユネスコの理念に基づき、レクリエーションの考えを基礎として、様々な活動に取り組んでいます！キッズプログラムでは、のべ約120名の小学生～中学生が参加してくれました！



3月23-24日 奈良教育大ユネスコクラブと合同研修キャンプ (予定・青年)

2018年3月に開始。活動を発表したり、プログラムを提供しあうことで、互いに刺激をもらい、自分たちの活動に活かすことができました！(昨年の様子)

2月2-3日 国際協カイベントへの出展 (青年)

大阪ワンワールドフェスティバルに出展！自分たちの活動の内容について説明したり、SDGSへの理解を深めるプログラムを一般参加者に行ったりしました。



1月5日 オールスタッフミーティング

12月8日キッズクリスマス会 (キッズ)

ゲームやプレゼント交換でクリスマスを楽しむことはもちろん、日頃お世話になっている人について考えたり、半年後の目標を自分への手紙を書いて投函したりしました！



12月15-16日びっくクリスマス忘年会 (青年)

自分の一年を見つめなおし、来年度を過ごす中で核となる言葉、「心訓」をつくりました！ここでしかできない、びっくりするほどのワクワクと、価値ある年忘れを！



10月13-14日 キッズキャンプ秋の陣 (キッズ)

集団生活を通して、思いやりの心や想像力を育てることを目的として、秋の自然を使って子どもたちによる手作りのお祭りを開催！工夫しながら、オリジナル通貨「みっけ」でお店を運営する姿が見られました。

3月

4月

4月21日 わくわく奈良めぐり (青年)

自分たちのまち「奈良」には世界遺産以外にもいいところたくさん！自分の足で歩いて“見て”肌で“感じよう！今年北町エリアの少年鑑別所もチェックポイントに！

5月13日 わくわくキッズ奈良めぐり (キッズ)

世界遺産にも登録されてる「奈良」自分の住むまちの、いいところをたくさん見つけました！目をこらして昔の写真と比較しながら、まちを探検しました！



5月

6月16-17日 キャンプ研修交流会 (青年)

パフォーマンスに応じてオリジナル通貨ゲット！楽しみながら、レクリエーションの基礎、キャンプスキルを学びました！

6月

7月 野外活動支援 (幼稚園、小学校、中学校等)

8月18-19日 キッズキャンプ夏の陣 (キッズ)

川遊びや野外炊飯、キャンプファイヤーなどを行いました。初めて会った友達との班活動を通して、生命の大切さや日常のありがたさに気づいたり、自分の可能性を発見したりすることができました！

7月

8月

9月 9月24日 スタッフ研修会

2月

1月

12月

11月

10月

9月

2018 年間テーマ
ええかお、みっけ！
笑顔、泣き顔、怒った顔…
いろんな「ええかお」を見つけよう！



【その他活動】

- 青年研修企画 / 地域での課外活動支援 / クラブ研修活動 (ギタークラブ等) など
- 定例会 (ミーティング) : 月2回 (企画前は1週間に1回) @中部公民館で実施。



※参加者・スタッフ募集中※
SDGs, ESD, 世界遺産、教育などに興味のある方！！
ぜひ、いっしょに活動しましょう♪
nara.unesco.kids@gmail.com

facebook



4. 今後の展開

- 「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、持続可能な社会システムや未来のライフスタイルなどのSDGsをコンセプトに掲げる「大阪・関西万博」への参加・協力
- 近畿地方における同様のSDGs学び旅の開発
- 修学旅行で学び旅を体験した児童生徒による地元でのSDGs活動の報告の場の提供 など

日本ユネスコ国内委員会

第7回文化・コミュニケーション小委員会

「これからの時代におけるユネスコ活動の推進－文化を媒介として－」

奈良教育大学 教授 中澤静男

1. 目標

- ・文化を通じて、平和で持続可能な地域社会の創り手を育成する（大学生・小中高校生）。
- ・文化を通じた平和で持続可能な社会づくりのモデルを発信することで、全国各地での若者による持続可能な社会づくりの行動化を誘発する。

2. 実践

(1) 歴史文化遺産を通じた ESD をテーマとした大学の授業の実践

「持続発展教育と文化遺産」「ESD と世界遺産」

古都奈良の文化財に代表される歴史文化遺産や伝統行事などを SDG s 達成の必須要素の観点から分析し、先人がまた現代においても受けついでおられる人々の営みに学び、自らの行動の変革を促す。

※SDGs 達成の必須要素

①国際協力、②技術革新、③新しいシステムの導入、④参加・協力する市民の存在・活動

(2) 修学旅行生を対象とした「奈良 SDG s 学び旅」

- ・目的：物見遊山的な奈良観光を SDG s を学び、自らの行動の変革を促す修学旅行に改革する。
奈良での SDG s の学びを自らの地域での実践に結び付け、各地での若者による持続可能な地域社会構築の動きにつなぐ。

・コース

①東大寺コース：大仏様の建立や復興に学ぶ

743年廬舎那仏造願の詔と SDG s（トップダウンとして）

詔に対する人々の対応、大仏様復興における人々の対応（ボトムアップとして）

②奈良町コース：元興寺が継承されてきた理由に学ぶ

有力なスポンサー不在にもかかわらず継承できた理由（ボトムアップ）

③奈良公園・春日山原始林コース：奈良の鹿と人の関わり、原始林が保全されてきた理由に学ぶ

鎌倉時代以降の三ヶ大犯（トップダウン）と奈良の人々のかかわり方（ボトムアップ）

841年の詔（トップダウン）と人々の対応（ボトムアップ）

・奈良 SDGs 学び旅の流れ

オンラインによる大学教員による SDGs に関する事前学習。あるいは、当日に奈良教育大学等で、大学教員から SDG s に関する講義を受ける（45分～60分）

少人数グループでガイドの引率の元、現地見学に向かう。

・コンセプト

- ①現地見学の重視：五感を鍛え、持続可能性に関するソマティックマーカーの洗練化を図る
- ②思考力育成を重視：ガイドは発問し、生徒同士の対話を促す。答えは言わない。
- ③地元に戻ってから、歴史文化遺産の ESD 教材としての探求を促す。

(初年度の学校のため、事後学習については把握できていない)

・2022年度の実績(4月～11月)

対象月	小学校		中学校		高等学校	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	4	594	0	0
6月	0	0	2	450	2	141
7月	0	0	1	103	1	39
8月	0	0	2	96	2	41
9月	1	55	1	24	0	0
10月	0	0	4	454	2	186
11月	1	99	2	237	3	251
合計	2	154	16	1958	10	658

(3) 新しい取り組み

奈良教育大学ユネスコクラブ(98名)と奈良ユネスコ協会青年部の連携

ユネスコクラブ:大学の授業やSDGs学び旅のガイド経験などで、ESD教材としての歴史文化遺産の活用についてはある程度の知識・経験を保有する。

奈良ユネスコ協会青年部:これまでの蓄積により、キャンプファイヤーなどの知見を保有する。

- ・合同研修キャンプの実施(3月11日・学び合い)
- ・5月わくわくキッズ奈良めぐりの協力実施
- ・幼稚園、小中学校の野外活動支援の協力実施

4. 今後の展開

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、持続可能な社会システムや未来のライフスタイルなどのSDGsをコンセプトに掲げる「大阪・関西万博」への参加・協力

- ・近畿地方における同様のSDGs学び旅の開発
- ・修学旅行で学び旅を体験した児童生徒による地元でのSDGs活動の報告の場の提供 など